

# とはち通信

※長崎西南部の史蹟・名勝・天然記念物等の紹介通信

第 5 号

※一説によると、かつて長崎西南部一帯を総称して戸ハヶ浦（とはちがうら）と呼ばれた時期がありました。現在、この名は存在しませんが、長崎西南部に対する尊敬の念をこめてこのようなタイトルをつけてみました。

二〇〇八年十月一日 落矢八郎

## 長崎の台場（概略その三）

前回は新規御台場（新台場）の話の途中で終わりましたので、今回はその続きをしていきたいと思います。

### ・沙崩台場

現在の長崎市西泊町内に存在しました。設置箇所は天領で南側には同領地の大多越・神崎の両台場が存在しました。今は畑となっており、かつての面影を確認することはできません。また、コンクリートの巨大な柵が存在しています。あたかもプールを連想させるのですが、これは戦時中に水を溜める目的で造ったと言われています。この他にも女神・神崎・高鉾・蔭ノ尾に台場が増設されました。翌年、幕府は新規御台場の他に岩瀬道・稲佐・高浜・野母・権島に台場を建設しました。

### ●増台場

一八一〇（文化七）年、幕府は福岡藩に対し、台場の建設を命じました。もちろん、フェートン号事件が影響したのはいまもありません。神崎・高鉾・長刀岩・魚見岳がその対象となりました。この時に建設された台場をた魚見岳の台場の紹介をしましょう。

### ●佐賀台場

フェートン号事件によって失墜した佐賀藩は一八五〇（嘉永三）年に幕府から台場建設を命じられました。そして、自らの領地に台場の建設をしました。場所は四郎が島（長崎市神ノ島二丁目）と伊王島（長崎市伊王島町）です。

### ●ホームページ

この時の台場は佐賀藩の威信をかけて造ったと言われており、四郎が島にはその痕跡がたくさん残っています。恥ずかしながら私は伊王島の台場に行ったことがないので記事を書けませんが、ここでは四郎が島の台場についてのみ紹介させていただきます。

第6号へ：

事務局  
とはち通信  
●メール  
h\_ochiya@yahoo.co.jp

第6号へ：



四郎が島台場



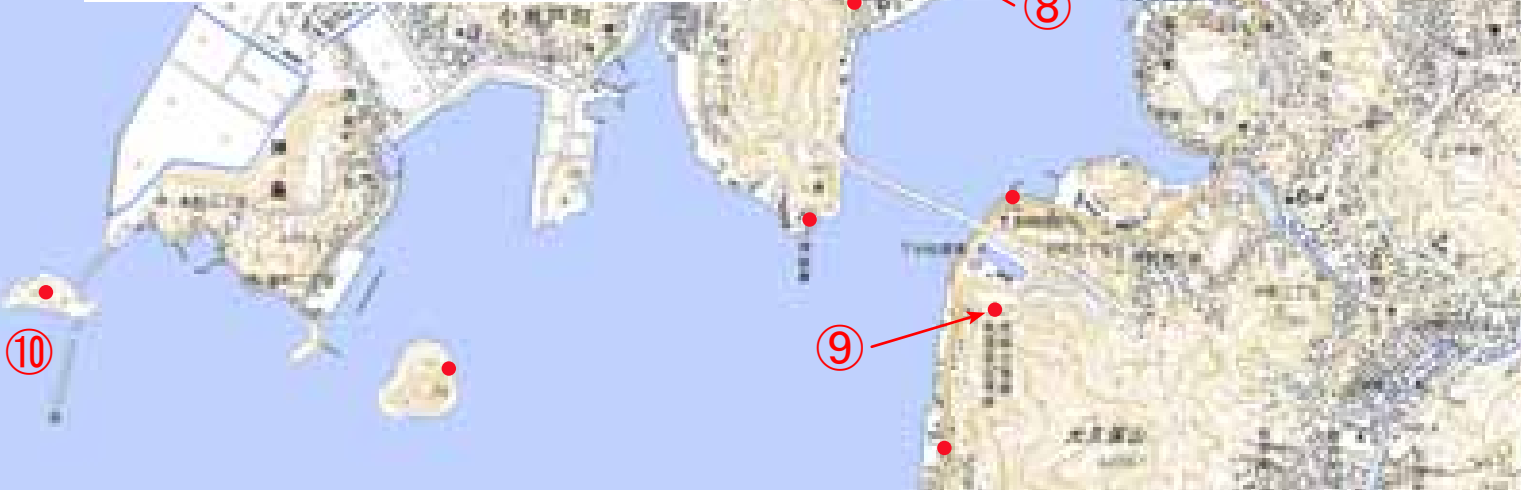
沙崩台場

⑩ 四郎が島台場 (神ノ島から撮影)

島を陸続きにして台場を建設しました。現地に行くと、草木が蔽い茂っているため詳細な観察は難しいでしょう。ただし、石蔵と思われる箇所から砲台までの通路は一見の価値があります。また、干潮時には海岸部へ降りると、石垣を見ることができます。

⑧ 沙崩台場 (国分町から撮影)

現在、畑地となっており、当時の面影はありません。現地へ行くと、山の斜面を削って平坦にして台場を建設したことがわかります。



魚見岳台場要図 (外山ほか1980)



⑨ 国指定史跡 魚見岳台場 (女神大橋から撮影)

当時の石垣が残っています。魚見山の斜面を造成したことが、写真からもわかります。写真は草木が繁茂している時の写真ですが、草刈り後には三の増台場の雰囲気わかります。台場の要図(外山ほか1980)を参考に是非一度は見学して下さい。